

炎天下の国道を歩いて感じた地域医療という社会インフラ

現在筆者が勤めている自治医科大学の卒業生には、出身都道府県の指定医療機関で9年間勤務する義務が課せられている。この義務年限中、多くの卒業生が僻地での地域医療に従事する。医学部生にも将来を見据え、地域医療臨床実習（community-based clinical clerkship）として週単位で現地の医療機関に赴き、地域医療を学ぶプログラムが組まれている。教員を現地に派遣する取り組みも同時に行われている。



筆者自身は山口県出身で、まずは地元を希望し瀬戸内海に浮かぶ周防大島を訪問することになった。山陽本線で岩国駅から約30分間揺られ大島駅に到着。自治医科大学から「移動は公共交通機関使用のみ許可」と通達されており、目的地へはバスが唯一の手段である。しかし次の発車は2時間後で、駅前にはセブンイレブンが1軒あるだけで、炎天下で待つ気にもなれず、大島大橋を目指して歩き出した。大島大橋を渡ると国道437号沿いは木々に包まれ、虫の音が響く。久しく忘れていた自然の息づかいに心が弾むが、陽射しは容赦ない。釣具店で喉を潤すと店主から「ここから先はバスに乗りなさい」と忠告され、無謀な炎天下の歩行は2時間でようやく終わりを告げた。

目的地の病院はCTやMRIも備える施設であったが、稼働病床は約60床。入院患者の多くは高齢者で、そこには転院や施設入所が難しい「出口のない医療」の現実があった。常勤医の多くは65歳を超え、若手は2名のみ。限られた人員で専門領域に限定せずに全身を診る体制は医療の原点を思い出させるものだった。外来では診察よりも世間話が自然と多くなり、待合室でも患者同士の山口弁が懐かしく響いていた。

この日、徳島県南部から医療MaaSの視察団の来訪があった。医療MaaSとは、外来診療設備を備えた車両が通院困難な患者のもとへ出向き、医師による診療をオンラインで行う仕組みで、「移動する外来ブース」というイメージである。筆者が自治医科大学所属と自己紹介で名乗ると、来訪病院の院長も偶然自治医科大学の卒業生だった。過疎と高齢化、医師不足という課題は、医療MaaS導入済みの周防大島と徳島南部で驚くほど共通していた。

宿泊先周辺に飲食店はなく、最寄りのコンビニも徒歩1時間と遠い。ホテル内にレストランはあったが、前日までの予約が必須ということで入れてもらえない。タクシーもなく、夕食難民と化した筆者と学生は、ホテルのフロントで勧められた結果、唯一の選択肢である売店の「ラ王」に落ち着いた。移動の不便さはそのまま医療アクセスの不便さを象徴している。

病院の経営赤字が多く報じられる昨今だが、僻地医療は採算性だけでは成り立たない。撤退すれば住民の暮らしは崩れ、地域社会の持続性そのものが危うくなる。炎天下の国道を歩いたことから始まった周防大島での経験は、地域医療が単なる医療提供にとどまらず、社会インフラそのものであることを改めて教えてくれた。

(山下裕玄)

顧問 森岡恭彦 今村正之 山崎洋次 幕内雅敏 名川弘一
 亀岡信悟 國土典宏 幸田圭史 佐野 武
 編集 長谷川 潔 船橋公彦 山下裕玄

臨床雑誌 外	科 第87巻 第13号 (12月号)	2025年12月1日発行 (1106号)
編集兼発行者	東京都文京区本郷三丁目42番6号	小 立 健 太
印刷所	東京都千代田区飯田橋二丁目15番5号	日経印刷株式会社

発行所 ☎ 113-8410 東京都文京区本郷三丁目42-6 (営業) TEL 03-3811-7239 : 振替口座 00120-1-149 番
 株式会社 南江堂 (編集) TEL 03-3811-7619 FAX 03-3811-8660 <https://www.nankodo.co.jp/>

・本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権（送信可能化権を含む）、貸与権、二次的著作物の利用に関する原著者の権利は、株式会社南江堂が保有します。

・JCOPY <出版者著作権管理機構 委託出版物>

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構（電話 03-5244-5088, FAX 03-5244-5089, e-mail: info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。

広告申込所: ☎ 113-0033 東京都文京区本郷5丁目24番6号本郷大原ビル6階 文京メディカル TEL 03-3817-8036